

V 八戸市南浜地先におけるホタテガイ資源調査

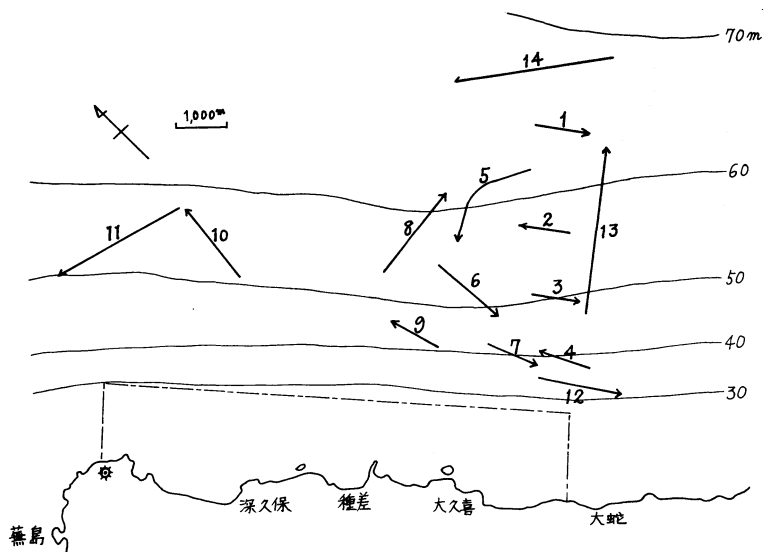
伊 藤 進

はじめに

八戸市南浜漁業協同組合地先においては、最近タコ箱を上げると、タコがくわえ込んだと思われるホタテガイが箱の中で発見される様になり、ホタテガイが繁殖しているのではないかとの事で本調査を実施した。

調査方法

- 調査期日；昭和45年5月29～30日
- 調査地点；第1図に示した14地点
- 調査事項；
 - (i) 底質； 田村式採泥器で採泥し、標準篩で篩別して粒子組成を求めた。
 - (ii) ホタテガイならびに底生生物； 開口2.55m、網目5.5cmのホタテガイ桁網を約100m/minaの速度で10～33分間曳網して採集した。ホタテガイについては個体数、障害輪数、殻の大きさ、重量を、その他の生物については個体数を測定した。



第1図 調査地点

(註) 矢印は桁網の曳網場所と方向を示す

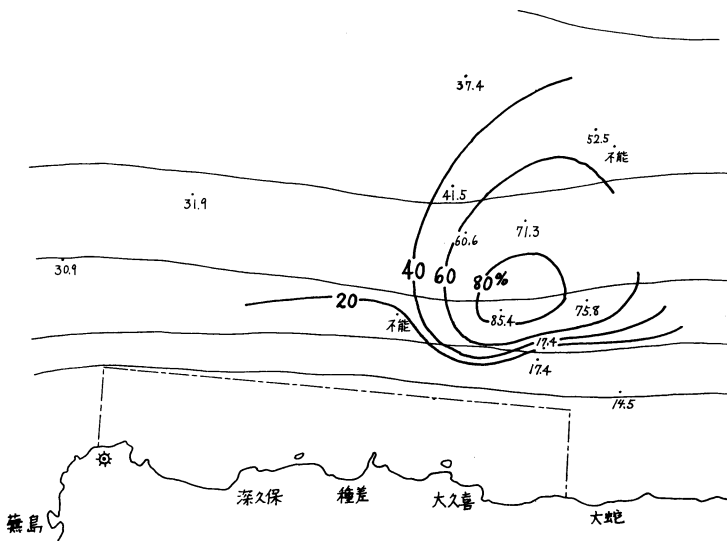
調査結果

(i) 底質

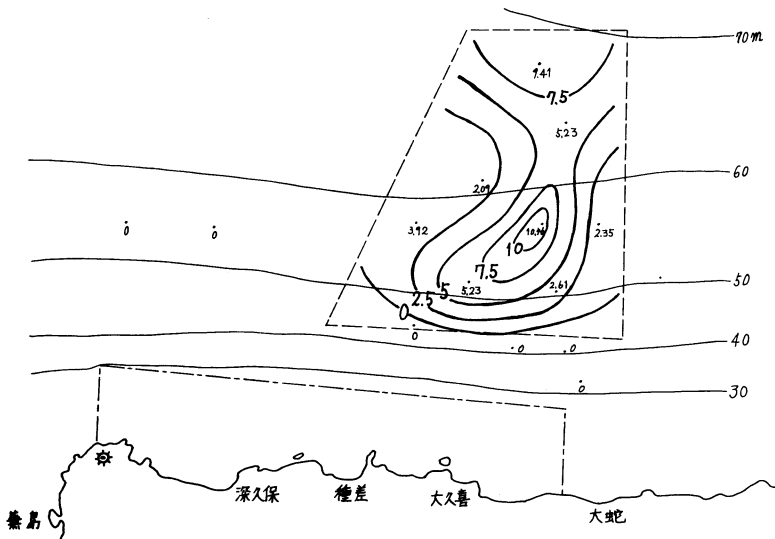
第2図に示した様に、一般に泥混じりの砂質のところが多かったが、大久喜～大蛇沖合の2,500～6,000m付近の水域においては泥分の含有量が非常に多くなっていた。

(ii) ホタテガイの分布状態

桁網の漁獲効率を15%とした場合の1,000m²当りのホタテガイ生貝の生息数は第3図のとおりであった。これで見られる様に、分布の中心は大久喜～大蛇の沖合4,000～10,000m付近で、その水深は50～70mに及ぶ水域であった。なおこの水域はまた底質の泥分含有量が多い場所とやや一致している傾向があった。泥分含有量が多い場所、すなわち底層水が停滞気味の安定した場所においては、ホタテガイの定着や生残りがよ

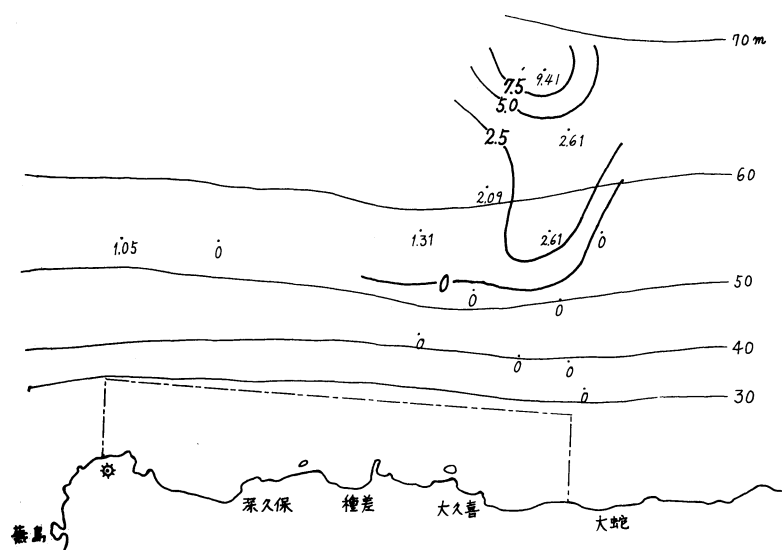


第2図 底質中の泥分(0.125mm)含有率曲線



第3図 1,000m²当りホタテガイ生息数

(註) 桁網の漁獲効率15%として



第4図 1,000 m^2 当りホタテガイ死殻数

(註) 桁網の漁獲効率15%として

いのではないかと想像される。

第4図に示した様に、同水域の沖合にかけては、ホタテガイの死殻も可成り多数見られた。

(iii) ホタテガイの資源量

桁網の漁獲効率を15%とし、第3図の点線で示した範囲内のホタテガイの資源量を、その生息密度と面積から計算すると、ホタテガイの資源量は個体数として105,600個、

重量として9,300Kgとなった。

(iv) ホタテガイの年令、成長

採捕されたホタテガイの測定結果は第1表に示したとおりであった。障害輪数は多くの個体で3個、少数のものでは4個が数えられた。障害輪が8〜10月頃に出来るものとすれば、採捕されたホタテガイは満4年乃至満5年に相当するものである。満4年と思われるものの平均殻長9.35cm、平均重量76.1g、満5年と思われるものの平均殻長13.10cm、平均重量149.0gであったが、この成長は陸奥湾内のホタテガイに較べて1年以上劣っているものの様である。

第1表 ホタテガイの測定結果

障害輪数	個体数	殻長 (cm)	殻高 (cm)	殻巾 (cm)	重量 (g)
3	27	8.7〜11.3	8.2〜10.8	1.8〜2.9	40〜110
		(平均)	(平均)	(平均)	(平均)
		9.35	9.27	2.20	76.1
4	2	12.2〜14.0	11.7〜12.9	2.8〜3.2	130〜168
		(平均)	(平均)	(平均)	(平均)
		13.10	12.30	3.00	149.0

(V) その他の底生生物

10分間曳網当りに換算した底生生物の採捕数は第2表の様であった。水深50m以浅の場所にニッポンヒトデが著しく多かった。また調査地点12では最近へい死したと思われるイタヤガイ（極く少数は生貝もあった）が多数採集された。

第2表 10分間曳網当りの底生生物採捕数

種 類	調査地点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
ホ タ テ ガ イ	(1) 2	(1) 4	1		(0.8) 0.8	2			(0.5) 1.5			(0.4)		0.9	(3.6) 3.6
イ タ ヤ ガ イ				(11)								(500) 4.7			(0.3)
カ ガ ミ ガ イ				1											
エ ゾ イ シ カ ゲ ガ イ													2.6		
ヤ ツ シ ロ ガ イ	10								0.5		0.6		0.7		
モ ス ソ ガ イ										1			2.7		
ツ メ タ ガ イ												0.4	0.7		
ニ ッ ポ ン ヒ ト デ			120	150	20	20	150	25	200	29.4	17.8	333	45.5	15.5	
ヒ ト デ		10		3						10	2.9		2		
イ ト マ キ ヒ ト デ				50			50		150				2		0.9
ア カ ニ チ リ ン ヒ ト デ	2					1.3			2.5		1.2			0.6	0.6
タ コ ヒ ト デ														0.3	
ス ナ ヒ ト デ		3		5			10	10						0.9	1.5
モ ミ ジ ガ イ				3									1.8		
ツ ガ ル ウ ニ	400	30	50		20	3.3	10				0.6	5.4		30.3	3.0
ブ ン ブ ク チ ャ ガ マ	10	1			12						1.8	1.1		0.9	0.9
マ ナ マ コ		2				0.7			0.5		0.6		1.3	0.3	
カ イ メ ン ヤ ド カ リ			5	10	2	3.3	5	1.5			1.8	1.4	2	1.8	0.9
ヒ ラ ツ メ ガ ニ				5							1.2	1.1	0.7		0.3
マ ボ ヤ			1									0.4			
ヒ ラ メ	2									2			2		
ナ メ タ ガ レ イ									0.5		0.6	0.4		0.3	0.3
そ の 他 の カ レ イ		2	1	1		2			0.5	1	1.2	0.8		0.3	
そ の 他 の 魚 類	2	1	1	1		0.7					1.2	1.5	0.7	0.3	

(註) カッコ内は死殻数

考 察

大久喜～大蛇沖合4～10 Km、水深50～70 mの水域にホタテガイが分布している事が確認された。しかしその密度は1,000 m²当り10.46個と低いものであった。また総資源量も個体数で105,600個、重量で9,300 Kgと、これまた余り多い量ではなかった。また生息場所の水深が深い為か、その成長は陸奥湾内のものより1年以上劣っている様であった。この結果から考えて、この資源を漁獲の対象とする事は出来ないが、外海にもホタテガイが繁殖している事は貴重な発見であり、ホタテガイの外海放流事業の可能性を示唆するものと考えられる。また外海放流の為の適地を知る為に大いに参考になる点が得られたものと思われる。